

かんきつ類でハナアザミウマの発生が増えています

令和6年11月13日（水）発表 広島県西部農業技術指導所

県内のかんきつ産地において、ハナアザミウマの発生が増えています。加害された果実には円状の白変が生じ、果実品質が著しく低下します。ほ場の見回りをを行い、果実に寄生が認められた場合には、速やかに追加防除を実施しましょう。

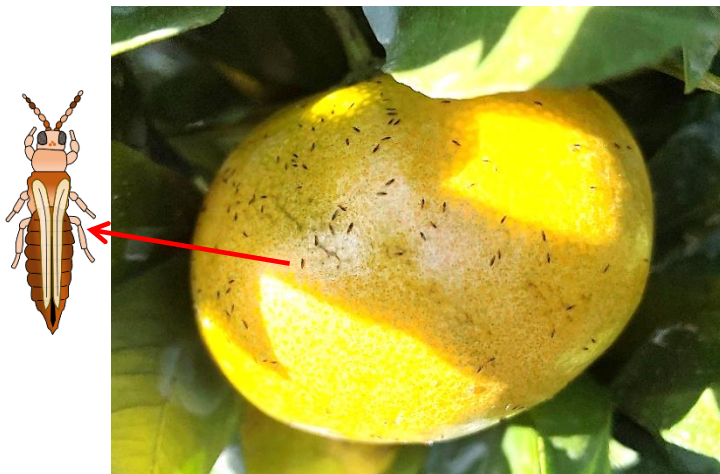


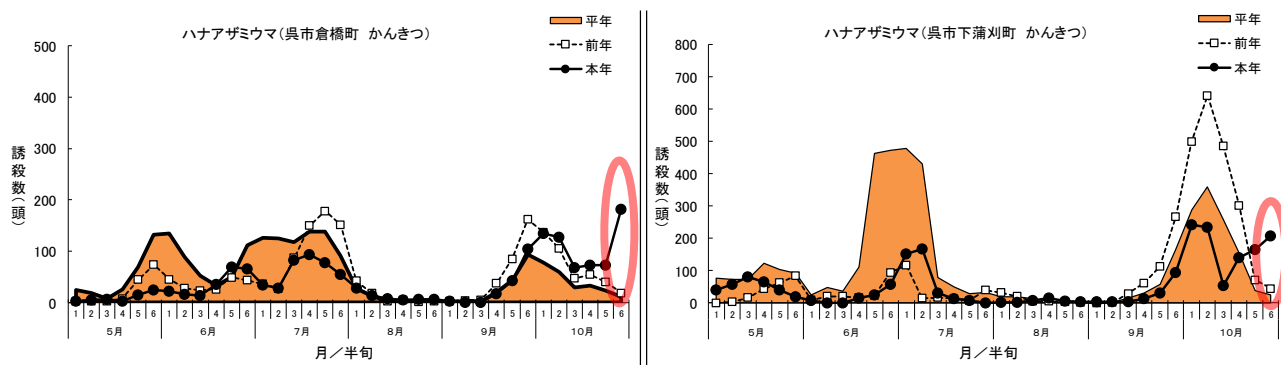
図1 温州みかんに多数寄生したハナアザミウマ



図2 加害により白変した部位のある果実

1 発生概況について

- (1) 県内4地点に設置している青色粘着板トラップでは、例年10月下旬にかけて減少傾向にありますが、今年は3地点で増加傾向が見られます。
- (2) 10月第6半旬時点での誘殺数は、瀬戸田町Aで**210.0頭**（平年112.6頭）、瀬戸田町Bで63.0頭（平年488.2頭）、倉橋町で**181.3頭**（平年10.8頭）、蒲刈町で**207.4頭**（平年25.6頭）と、4地点中3地点で平年よりもかなり多い値となっています。
- (3) 向こう1か月の気温は平年より高い確率が80%となっており（11/7 広島地方気象台発表）、アザミウマの発生に好適な環境が続くと予想されます。
- (4) 現地からも、ハナアザミウマがかんきつ類の果実に多く寄生しているという情報が寄せられています。



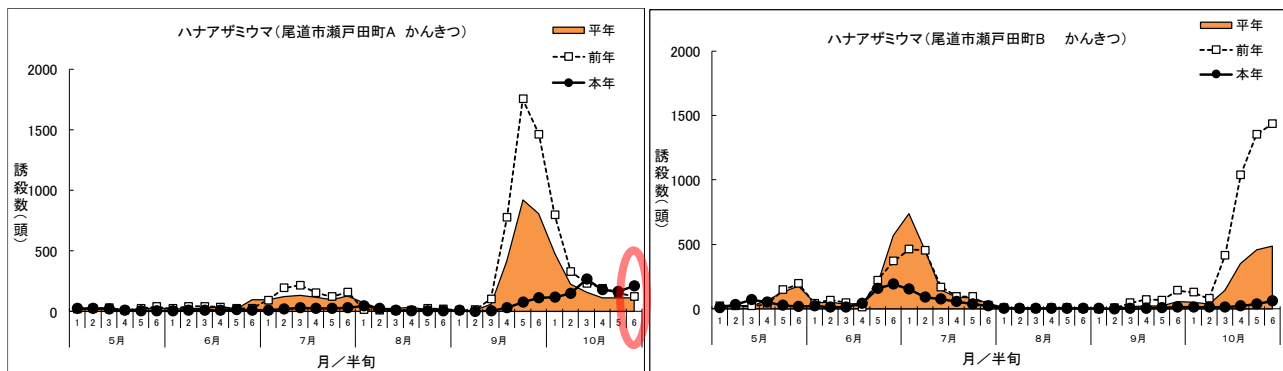


図2 青色粘着板へのハナアザミウマ誘殺数の推移

2 防除対策について

- (1) ハナアザミウマは果実同士や、果実と葉が接した部分など、隙間に寄生して加害することが知られています。ほ場を見回り、発生が増えていないか確認しましょう。雌成虫は、体色が茶色で、体長が1.5mm程度のため、肉眼でも比較的観察しやすいです。
- (2) 温州みかんやはるみ、ネーブルなど多くのかんきつ類が着色期に被害を受けます。
- (3) 果実への寄生が多く認められた場合、薬剤防除を実施しましょう。スピノサド水和剤やフルメトキン水和剤、スルホキサフロル水和剤などがアザミウマ類に対して有効です。
- (4) 薬剤散布する際は、抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布しましょう。
- (5) 薬剤散布については、農薬使用基準を順守しましょう。ラベルをしっかりと読み、収穫前日数や倍率などに注意してください。また、かんきつは収穫時期に入っている品種も多いため、周辺の別作物への飛散にも十分注意しましょう。

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151

東広島市八本松町原 6869

TEL：082-420-9662（直通）



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

ひろしま病害虫情報

検索

